

沖縄県総合運動公園概要

昭和 62 年に開催された海邦国体の主会場として整備が進められ、緑と海と太陽をテーマにスポーツゾーン・森と水のゾーン・海浜ゾーンにエリアが分かれビオトープも取り入れた自然環境体感型の広域公園です。

公園面積 70.4ha（東京ドーム 15 個分）の広大な敷地の園内には季節感にあふれた四季折々の多様な樹木や花木が多くあります。

公園内への入り口は 7 か所あり、利用する施設・場所に近い駐車場の利用が可能です。

公園北側には日本陸連第一種公認の陸上競技場を初めとする 6 つのスポーツ施設があり、公園南側は、サイクルセンターや望水亭、オートキャンプ場があり、緑や水辺などのどかな雰囲気豊かな自然を楽しむことができます。

夏場は全長 100m を誇るウォータースライダー 2 つを有するレクリエーションプールがあり、休日は多くの家族連れで賑わいます。

スポーツのみならず、レジャーや文化交流等を含めた複合的機能を有する沖縄県内最大級の総合運動公園として幅広く多くの県民に親しまれています。

私が所長になり始めたことは、たくさんありますが、課題もあります。

施設の老朽化による漏水、街灯も含め埋設ケーブル不具合、建物スラッグ等による欠落、担当課の協力でその都度修理させていただいていますが、大掛かりな工事も必要になってきています。

また、利用者が増えれば増えるほど駐車場不足の問題が出てきます。一昨年、新たにレクプール前駐車場が出来ましたが、それでもトータルで大型も含め 1,138 台となり、1 台 4 名、大型 60 名で乗ってこられたとしても、最大で 6,000 名ほどしか駐車場収容能力がありません。それに対し、施設の収容者数は陸上競技場だけでも 15,000 人、他の施設を合わせると 70,000 人のキャパシティがあります。残念ながら公共交通機関はバスだけで本数も少ないことから施設の利用制限も生まれてきます。

平成 25 年の沖縄県総合運動公園のゾーン図面を見ると、実は航空写真にある自転車競技場がどこにも書いてありません。これはもともと計画にはなかった施設で仮の競技場施設として本来の駐車場に作られました。このスペースだと

300～400台は入ります。また、この競技施設の利用者分の駐車場も確保されていないままつくられたことになり、計画よりも500台はすでに少ない駐車場ということになります。

ですが、九州南部インターハイでもこの自転車競技場で開催されました。もちろん、そのために改修工事も行われました。仮とはいえ立派な施設で選手育成にも寄与しており、ここを取り壊して駐車場にするなどは現実的にはあり得ないことです。税金が投入された以上、しっかり管理運営し、長く利用できるようにすることも税金運用の基本だと考えています。

現在私たちができることは、駐車場整理員の配置、園外の駐車場借用です。しかしながら、暑いし歩かない県民性からか遠くの駐車場には止めてくれません。シャトルバスも嫌がります。その為考えたのが、園内の無料循環バスの運行による駐車場の無駄をなくすことです。

しかしながら、土日は全く足りない状況になり、皆さんにご迷惑をおかけしています。県の担当課も把握しており、すでに計画もあり、予算が付けばという状況です。それまでの対応として、中央口門入って、右側の芝生、レクプール前の駐車場増設、ドーム横の森の広場を臨時駐車場として利用するなど、今後の芝生管理体制の変更で可能です。大掛かりな工事としては中央口、東口駐車場の立体化への整備、同規模の他府県の公園の場合、JRやバスもあり駐車場も3,500台と利用者には選択肢もあるため、土日有料化なども行われており受益者負担も凶られているところです。また、担当課である都市公園課の皆さんも、駐車場不足は最優先で考えていただいています。レクプール前駐車場新設の際には、こちらから南口駐車場の出入りが不便で出庫時間になると渋滞する為、出口の複線化をお願いし、すぐに実現していただき渋滞緩和策になりました。

そのほかの部分、例えばキャンプ場の受付、スポーツ施設の予約受付支払いが、当初管理事務所でしかできませんでした。

それをキャンプ場にキャンプセンターを開設し付加価値をつけることでその職員給与も確保し運用しています。

施設の専有予約受付支払いも中央口駐車場の売店に総合案内センターの機能を持たせ、予約受付支払いができるようにしました。駐車場から近くわざわざ管理事務所まで歩かなくても受付支払い等できるようになり、そして令和3年度より予約システムの構築により携帯やパソコンからも予約ができ、支払いもカードで引き落としもできるようにし、団体の予約申請もメールでできるようにしました。

各施設に職員の配置をし、それによってすべての管理施設で子供110の家の認可を受け、清掃班・植栽班もふくめ、全職員に普通救命講習並びにオレンジ

リング講習も取得し、広い園内の安心安全な管理業務にあたっています。

体育館トレーニング室の機材を一新、冷房も完備しました。陸上競技場のトレーニング室も改修いたしました。

テニスコート管理棟にも冷房完備し、熱中症対策場所を設け、特に利用の多いテニスコート・レクドーム・サッカーラグビー場においては大会終了後、速やかな一般開放に協力していただき、施設開放があれば SNS で一般利用者にお知らせするシステムを周知し、現在 12,000 人に登録していただいております。

中体連、高体連、他競技団体の協力により、準備時間の短縮による一般開放時間の確保をお願いしています。

郷土館の有効活用、すでに老朽化のため利用されていなかった図書コーナー、展示コーナーをおむつ交換、授乳室も備えたキッズルームに改修、視聴覚室もバルーンルームとして運用し、また各諸室も陶芸室の窯、冷房機の新設など改修し、多目的室に冷房も完備しました。

多目的室、紅型室など南側エリアの休憩室として冷水器も備え開放しています。熱中症対策、雨天時の遊び場としての機能もあり、大判将棋 2 基 (3m×3m)・卓球台なども完備しています、喫茶コーナーなども整備し、昨年には公園ピアノも寄贈していただきました。

自主事業・教室・講座・イベント

主催野外教育事業運営は、参加者への教育的意義とともに、野外教育は多くの企業研修にも取り入れられており、スタッフ教育としても効果があることから、特にレクリエーションプール閉館時のスタッフに余裕がある時期に、多くの事業を開催することで、全スタッフが経験し、担当者として経験を積み一般業務にも反映しています。また、私の前職が文部科学省の特殊公益法人で野外活動のディレクターでもあるため、前職から沖縄長期体験シリーズを始め、野外教育学会で子供たちへの効果が認められる事業を行うノウハウがあり、過去には筑波大、福島大、信州大、びわ湖成蹊スポーツ大などの教育学部、スポーツ学部の学生がボランティア、インターンシップで研修に来ています。野外機材としてカヌーや SUP テントなどの備品は野外教育団体より寄贈を受けて、県民の体験事業でも活用しています。びわ湖成蹊スポーツ大学とは産学協力で毎年 5~7 名の夏休みインターンシップを実施し、研究データ分析をするほか、多くの沖縄の子供達の野外体験を支えています。

以前、浦添市で野外教育の講演会を行った際に、所得による体験格差の問題が特に印象に残り、解決策を模索していました。そんな折、県総ならば自動販売機売り上げの3分の2以上が事業の運営費に使えるという内容を知りました。そうすれば無料でも体験事業ができると思い、こちらに赴任しました……。残念ながら県財政不振から現在自動販売機売り上げも全額公園運営費に回すことになり、指定管理料も減額になりました。そこで、キャンプ場の薪販売、ガチャガチャ、売店売り上げ、自主事業の有料化、沖縄食糧さんやその他の企業さんからの材料の無償提供などにより、現在も多くの無料事業を開催することができています。

【教室・講座】

スポーツ教室・健康教室・文化教室を開催中。年間74教室実施
教室終了後、多くの参加者がサークルを作り活動しており、平日の施設稼働率増に貢献

【イベント】

子供遊びまつりシリーズ（GW1回を年3回に。1回分の予算より削減）

① GW（ドーム）②秋ネティブアメリカンフェスタ・コミュニケーション③冬（ドーム）

■感謝祭シリーズ年9回（自転車・ボート無料）

- ① 母の日：お掃除自慢のお母さん ②父の日：関白宣言
- ③ 七夕：スターフェスティバル ④敬老の日：本当は孫の日
- ⑤ ハロウィン：百鬼夜行 ⑥ クリスマス：集まれサンタクローズ
- ⑦ ノーマイカーデー ⑧ 節分：鬼嫁鬼ババア県総に来る！
- ⑨ ひな祭り：我が家自慢の箱入り娘

■園児招待シリーズ年7回無料

サツマイモ植え付け・こいのぼり掲揚式・七夕の集い・サツマイモ堀・百合植え付け体験・ちびっ子餅つき体験・県総鬼退治&餅つき

■災害時体験シリーズ

救急の日（避難訓練初期消化救急処置訓練）・炊き出し体験（各種炊き出し）
美崎町合同避難訓練・災害時体験ファミリーキャンプ（シェルター泊20キロ歩行）・災害時ペットレスキュー・中部トリムハーフマラソンキャンプ村（ドーム）・着衣泳体験

■子供キャンプシリーズ（野外冒険教育）

- 1、春休みキッズキャンプ（シェルター泊 30 キロ歩行）
- 2、秋の子供キャンプ（シェルター泊 30 キロ歩行）
- 3、KENSU 沖縄本島一周チャレンジ 7泊 8日（自転車徒歩 470 キロ）
- 4、KENSU 沖縄長期自然体験村伊平屋 7泊 8日（徒歩・ビバーク）
- 5、KENSU 辺戸まで歩こう 140 キロ子供キャンプ 5泊 6日（徒歩・ビバーク）
- 6、KENSU 沢登りキャンプ 2泊 3日 年4回

■環境系イベント

- 1、わくわくクワガタ虫かごづくり、ソテツの葉虫かごづくり、クワガタムシプレゼント、ビオトープの話、県総林床整備、虫の繁殖養殖、元気な森にはクワガタも育つ、やんばるの自然辺士名高校協力
- 2、キャンプ場 焼き芋体験
（落ち葉焚きの目的、台風時倒木落ち葉を集めると寒くなると虫が集まる、卵を産み付ける。それを燃やすことによって害虫駆除、消毒の回数を減らすことができる。）
キャンプ場に炭捨て場を作り、利用者に焚き火台レンタルを用意し、直火以外の焚き火、炭利用のマナールールを徹底しました。
熊本震災により売れなくなった杉丸太を支援のため100本購入し、スウェーデントーチ・薪として利用できるようにしました。火の温かさ、焚き火の静けさなどの体験。
- 3、SDGs ビーチクリーン&ゆい池カヌー体験、ウォーターレタス狩り
水質を悪化させる外来水生植物の駆除をカヌーの無料体験をしていただきながら行う環境学習、外来種のテラピアが鯉の卵、稚魚を捕食するため鯉が増えないことを知っていただく。
- 4、蚊取り線香・防虫スプレーづくり体験
- 5、エコラップ作り体験
布に蜜蝋で加工し、洗って繰り返し使えるラップ

■文化地域季節の体験系イベント **無料**

- 1、七夕笹団子作り体験
- 2、チマキ作り体験
- 3、ちびっ子餅つき体験
- 4、沖食プレッソサンタで餅つき体験
- 5、ムーチャーづくり体験

- 6、 桜餅作り体験
- 7、 バームクーヘン作り体験
- 8、 沖縄プレッツ新嘗祭コミュニケーションの日

県総の炊き出し事業は、災害避難時（最終加熱調理）の体験も目的としています。他府県と違い災害時にはボランティアが車で駆けつける事ができないために避難所となる公園でのこのような体験も重要と考えています。また、沖縄県の食を支える企業である沖縄食糧様との共催で皆様に体験事業を提供することができます。子供達には新嘗祭の歴史的な意味やちまき作り、ムーチャーなどの由来や背景など合わせて学び体験していただきたいと思います。

■県総発祥イベント

- 1、 第4回ブレイブボード大会
- 2、 第2回義経の八艘飛びタイムレース
- 3、 第3回WBB ウォーターバルーンバトル
- 4、 第4回セパスロン（キッズセパレートトライアスロン）
- 5、 第2回ミズノキッズスプリントトライアル
- 6、 ソーメンには負けられない 流しスパゲッティ 流しうどん
- 7、 マンゴー種飛ばし大声大会
- 8、 第3回水上おしくらまんじゅう沖縄場所（発祥佐賀県武雄市公認）
- 9、 ほかにもあるようだが最初に始めたという認識がない・・・
焼き芋ピザ・子供たちのクリスマス料理ローストチキンサンタさんへ
ほか

■スポーツ系イベント

- 1、 第2回県総オープンテニス
- 2、 KENSO スポーツチャレンジ
- 3、 KENSO 将棋王決定戦大盤将棋（スポーツ将棋）
- 4、 KENSO カヌーSUP 体験inレクプール
- 5、 第2回 KENSO ジュニア対抗テニス
- 6、 第2回 KENSO キッズスプリントトライアル
- 7、 WBB ウォーターバルーンバトル
- 8、 KENSO 杯テニス大会
- 9、 第2回 KENSO 月見オープンテニス
- 10、 3on3 バスケットカップ
- 11、 第31回 3on3 ミニバスケットボール大会
- 12、 第2回秋季 KENSO テニス大会

- 13、第4回 KENSO セパスロン大会
- 14、第30回中部トリムハーフマラソン
- 15、第4回ブレイブボード大会
- 16、第4回キッズホビーレース
- 17、沖縄マラソン
- 18、初めてのテニス教室通年
- 19、初めてのキッズテニス通年
- 20、その他

■その他のイベント

キャンプ料理講座年5回程度（ドイツ料理：フランクフルトづくり、イタリアン料理：鴨ローストニョッキ・魚を解体ショーウ・羽釜でご飯他）

焼き芋、石窯ピザ、揚げじゃが、ホットケーキアート、流しシリーズ、そーめん、スパゲッティ、うどん、冷やし中華

炊き出し・カレー・けんちん汁・中華がゆ・芋煮・女川鍋・そのほか

災害時は現在300食から2,000食できるものもある機材を揃えている。

県総の職員構成（指定管理者：トラステック）

トラステック 正社員31名

トラステック契約社員15名 季節契約20名

植栽関係（桃原農園）12名 シルバー5名 結+その都度

清掃・メンテナンス（国際ビル）

メンテナンス常勤2名応援1名、清掃班11名

警備 14名3交代

トラステックの就業特徴：実労7時間勤務

職員には、所長を筆頭に国体など沖縄県代表経験者も多く、弊社は労働時間7時間制を採用し練習環境も整っている事から、今後も選手を採用してスポーツ団体への協力、後進の指導やスポーツ施設運営にも活かせる人材の育成にも貢献します。

社員が報告・連絡・相談がしやすい環境を作るために、上司は怒らない・否定しない・助ける・指示支持するおひたしを心掛ける、固定観念にとらわれた味を付けない・・・

最終報告の前に中間報告、トラブル報告、結果報告に重きを置き、社員教育に努める。新人識者を育てるならばまず、上司から・・・

困っている問題・・・老朽化の施設整備に追われていること。
県管理時代にゆい池に買ってきて入れたらしいボタン浮草（ウォーターレタス）、2, 3年前に近所の高齢者の方が池に入れたホテイアオイが池に大繁殖。毎週撤去に追われているが、年々温暖化の影響で繁殖力も上がりホテイアオイは浮草ではないため撤去が困難。今年度は業者に依頼しなければならなくなった。

ホテイアオイは県に許可を取って入れたといわれているが、県担当課は許可していないということ。そもそもどちらも外来種。

猫やウサギ、亀などの不法遺棄の他に、電化製品の不法投棄、ごみのポイ捨てなども目立ちます。駐車場近くのごみ箱も家庭ごみの持ち込みも多く、施設内のごみ箱を移動しました。高齢者の方で中国の方が多いからごみが増えたとか言われる方が居ますが、コロナ下の時期で海外からの方はほとんどいなかったにもかかわらず、東屋などにファーストフードの大量なごみなどが増えました。居酒屋などが閉まり、スーパーなどのお惣菜パック、酒類の缶などが増えました。自販機も含め購入された場合、入れ物も一緒に買われていますので空き缶なども所有権は買われた方になります。それを置いて行かれると不法投棄になります。

県総の利用者の中には、ごみ拾いをしていただいている方も多くいらっしゃいます。

公共施設を利用する場合は後の方のことを考えて、来た時よりも美しく、を心がけましょう。ご理解ご協力をお願いします。

福島